

# B's Research 第2回

受験生の父親の  
進学への関わり方

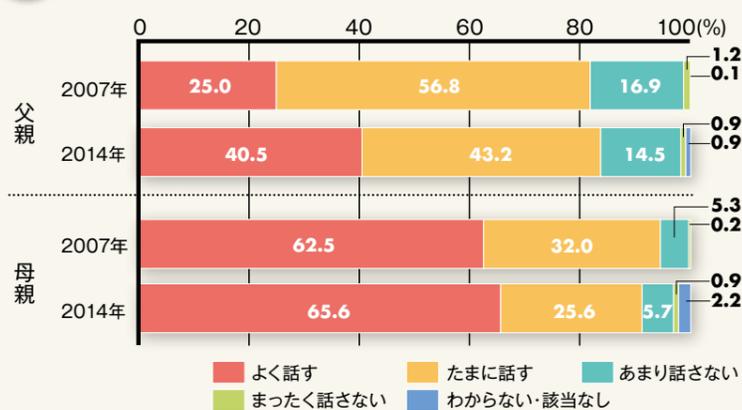
## 4割が特定の大学を薦め うち7割がその大学を受験

第2回は、今春の大学・短大入学者の父親に、子どもの進学にどのように関与したか調査をした。7年前に比べると、父と子の会話が増え、父親が受験校決定に一定程度の影響力を持つことがわかった。これまで多くの大学は、受験生の保護者という母親を想定し、父親の関与をさほど重視しなかったのではないかと考えられるが、今後は、父親ならではの関心事、受験への関わり方をきちんと把握し、広報に反映する必要があるようだ。



【設問】どのくらいの頻度で子どもと話をしていますか？

子どもと「よく話す」が16ポイント増の41%



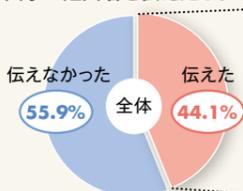
※2007年調査：大学生の保護者を対象にインターネットで実施。(有効回答数：父親n=651、母親n=637)

2007年に実施した調査と比較すると、父母ともに「よく話す」の割合が増加。特に父親は15.5ポイントと、7年前より大きく増加していることに着目したい。父母間で比較をすると、母親は65.6%がよく話をしており、父親以上に子どもとの関係が密接であることには変わりはない。それでも、「父親は仕事が忙しく、特に思春期の子どもとはあまり会話がな」といった従来の傾向とは異なっている。

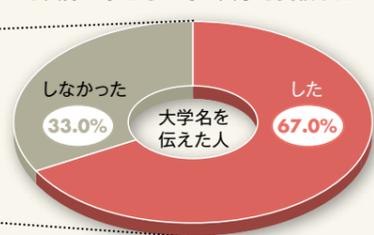
【設問】受験してほしい大学・短大名を子どもに伝えましたか。実際にそこを受験しましたか？

「特定の大学を薦め、実際に受験」は、父親が大卒以上の場合に多い

●進学してほしいと思う  
大学・短大名を伝えましたか。



●実際に子どもがその大学を受験したか。

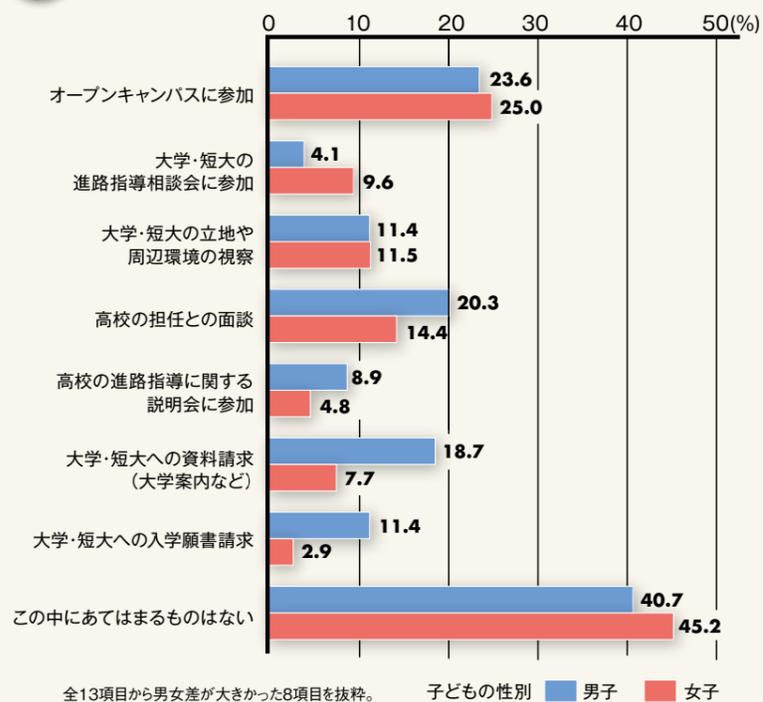


全体では44.1%が受験してほしい大学名を伝え、67.0%が実際にその大学を受験した。大学名を伝えたのも子どもが実際に受験をしたのも、父親が大卒以上の場合に多く、それぞれ51.6%、75.5%だった。自身の受験と大学生活の経験をもとに、「良い大学」「子どもを行かせたい大学」の具体像を持っており、子どもに対する影響力がより大きいかもしれない。



【設問】子どもの進学先を検討するために、行ったことは？

4人に1人の父親がオープンキャンパスに参加

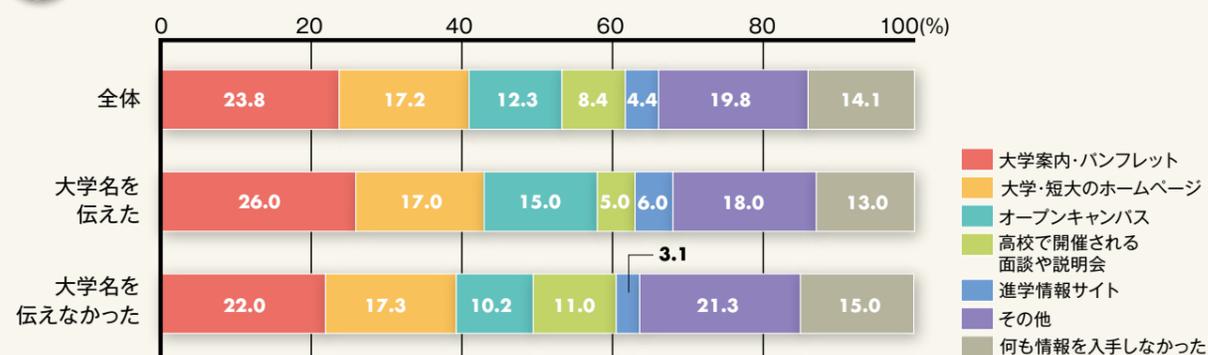


進学先を検討するために具体的な行動を起こした父親は57.3%。オープンキャンパスへの参加は約4人に1人、大学案内などの資料や願書は父親の5人に1人が請求していた。

子どもの性別で見ると、女子の父親はオープンキャンパス等、大学が主催するイベントへの参加率がやや高かった。男子は、保護者と一緒にいるところを友達に見られたくないという思春期特有の感情も影響していると考えられるが、女子との差はさほど大きくない。資料や願書の請求は、男子の父親が女子の父親の2倍以上に上った。全体的に男子の父親の方が積極的に行動している。その要因と傾向について、より詳細な分析が必要と言えそうだ。

【設問】子どもの進学先を検討するにあたり、最も活用した情報源は？

「情報も入手せず特定の大学を薦める父親」に対する発信の工夫を



※全24項目から上位5項目を抜粋。「その他」は18項目を合算。

「何も情報を入手しなかった」と回答したのは14.1%で、8割以上の父親が何らかの進学情報を収集している。全体では大学案内や大学ホームページが広く活用されている。

子どもに受験してほしい大学名を伝えた父親は、伝えなかった父親に比べ、大学案内とオープンキャンパスの活用度が5ポイント程度高い。注目すべきは、大学名を伝えた父親の中に

も、「何も情報を入手しなかった」が13.0%存在していることだ。こういった父親にも大学の情報を確実に届ける策を工夫し、適切な選択基準を持ってもらうことが大学の課題と言えよう。

調査概要  
 ● 調査主体：進研アド Between 編集部  
 ● 調査方法：インターネット調査 (スマートフォン保有者対象)  
 ● 調査時期：2014年2月  
 ● 調査対象：2014年度の大学・短大入学者の父親  
 ● 有効回答数：227人